

2024/2/26 (月)

朝の礼拝

聖書 マルコによる福音書 1章 14-15節 (新約聖書61頁)

ヨハネが捕らえられた後、イエスはガリラヤへ行き、神の福音を宣べ伝えて、「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」と言われた。

時は満ち

イエスの生涯の第一声です。神様の愛が実現する時が来たと言っています。「時は満ち」の「時」とは神様が与える時、神様のタイミングです。それが「満ち」とはコップに水をいれて、あとひとしづく入れたら溢れてしまう。日本的に言えば「満を持して」互いに愛し合う時が来たということです。

そもそも物理的な時間という考えは人間が作り出したものと、アイシュタインは言っています。今、イタリアの物理学者が書いた『時間は存在しない』は世界的なベストセラーです。世界の様々な暦から一つの学校の時間割まで、どれもデジタル（区切られた時間）ですが、人は出来事のつながりで時間を感じます。

お腹を空く時も、眠くなる時も、おトイレに行きたくなる時も、みんな一人ひとり違います。ひとりの人の生涯は一度きりで、決して後戻りできない、その人だけのものです。でも人は共に生きるものですから言葉を覚え、約束を守り、我慢する、予定された時の中でうごめいています。

しかし順応したり、耐えたり、自分が評価され、他者から褒められることだけを意識していると自分も、まわりも見えなくなり、誰の道を歩いているのか途方に暮れます。私たちがカオスに、闇に紛れている時こそ、互いを照らし、愛し合う時が満ちているのではないのでしょうか。

(しばらく黙祷しましょう)

慈しみ深い主よ、もうすぐ一年の学びの時間が終わります。進級、卒業から新たなステージへと向かっています。毎日、英和生たちはあなたが共におられることを信じ、祈っています。しかし残念ながらあなたを忘れ、自分の思いだけで歩んでしまった時もあります。どうか私たちの過ちを赦し、足りないところを補い、共に感謝と喜びをもって春を迎えることができますように。今週はテスト、そして卒業式があります。あなたが共におられ別れと旅立ちの時間を祝福してください。どうか今日一日もすべてをあなたに委ね、よき学びのうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン